

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11) 実用新案出願公開番号

実開平4-109247

(43) 公開日 平成4年(1992)9月22日

(31) Int. Cl. ⁴	特許庁	庁内登録番号	P 1	技術振興課所
F 1 6 H 3/70		9030-3 J		
3/78		9030-3 J		

審査請求 未請求 請求項の数2(全2項)

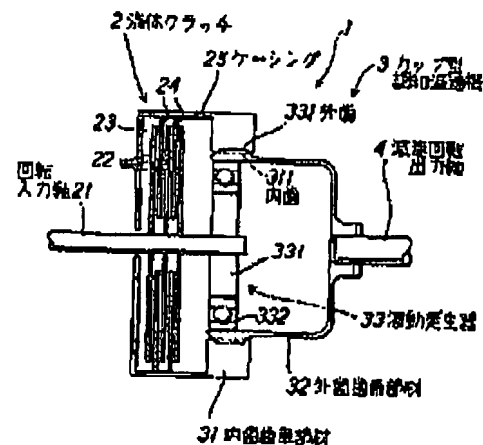
(21) 出願番号	実開平3-12385	(71) 出願人	380040061 株式会社ハーモニック・ドライブ・システムズ
(22) 出願日	平成3年(1991)9月7日	(72) 特許者	伊藤 省規 兵庫県南あわじ郡桑名町大字豊科4432-29
		(74) 代理人	仲野士 渡辺 忠孝

(54) 【考案の名称】 トルク可変無段変速機構

(57) 【要約】

【目的】 変速比を無段階に変更可能であると共に、変速比に応じて伝達トルクを増減させることが可能となったトルク可変無段変速機構を実現すること。

【構成】 減速機構1は、流体クラッチ2と、歯車式のカップ型減速機構3から構成されている。流体クラッチ2の回転出力要素であるケーシング25は、減速機構3の側の剛性内歯車部材31と一体回転するように結合されている。また、回転入力軸21は、減速機構3の減速発生器33と一体回転するように結合されている。流体クラッチのすべり量、換言するとクラッチ接合度を調整することによって、減速機構3の減速比を1/Rとすると、見掛け上の減速比を1:1から1:1/Rまで無段階に変更できる。また、これに伴って、伝達トルクの増減比も変更される。



(2)

実開平4-109247

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 回転入力要素と回転出力要素との間のすべり量が可変となっているクラッチ機構と、この無段変速機における前記回転入力要素および回転出力要素のうちの一方に対して、回転入力要素および変速回転出力要素のうちの一方が連結されている変速比固定型の変速機とを有することを特徴とするトルク可変無段変速機。

【請求項2】 請求項1において、前記クラッチ機構は流体クラッチであり、前記変速比固定型の変速機は可変変速機であり、この可変変速機は、弾性の弾状部材と、可撓性の環状部材と、この可撓性の環状部材を半径方向に誘導して前記弾性の環状部材に対して旋転の箇所を保持させ、これらの係合位置を円周方向に移動させることによって、これら環状部材の間に相對回転を発生させる被動発生器から構成され、前記流体クラッチの出力要素が、前記可変変速機の弾性の環状部材、可撓性の環状部

材および被動発生器のうちの一方に対して一体回転するように連結されていることを特徴とするトルク可変無段変速機。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の一実施例に係る減速機構を示す概略構成図である。

【符号の説明】

- 1・・・減速機構
- 2・・・流体クラッチ
- 21・・・回転入力軸
- 25・・・ケーシング
- 3・・・カップ型減速機構
- 31・・・内歯部材
- 32・・・外歯部材
- 33・・・被動発生器
- 4・・・減速回転出力軸

【図1】

